

説明書

(令和6年6月7日作成)

・不誠実対応-48

アルプスの森(代表:宇津慎史)は、安全対策のための約束を反故にして死亡させた悠生君の遺族には一切の報告もなく、アルプスの森(代表:宇津慎史)が生活介護の事業からも撤退していた事が判明した。

旧アルプスの森(代表:宇津慎史)が存在していた施設は、建物はそのままアルプスの森(代表:宇津慎史)とは異なる組織である「株式会社キープレイス」が「生活介護サニー」という事業所の名前で、令和6年年5月1日から開設していたことが判明。



アルプスの森(代表:宇津慎史)の建物の一階部分は高齢者等を対象にした生活介護を行っており、二階部分は放課後等デイサービス及び、児童発達支援を行っていた。



悠生を死亡させた事件を起こした後も、翌日からアルプスの森(代表：宇津慎史)は放課後等デイサービス及び、生活介護の通常通りの開設を継続した。その後、宇津雅美(児童発達支援管理責任者)、宇津慎史(施設代表)、棟方日出海(従業員)が施設利用者に対する暴行で逮捕されたのちに、放課後等デイサービス及び、児童発達支援は閉所も、生活介護は通常通りに開所していた。

このアルプスの森(代表:宇津慎史)の管理者は、代表者とは違う人物であったが、悠生の命を奪った事件発生後に施設から吹田市に提出した監査指導事項改善報告書(令和5年9月10日)に令和5年9月1日から管理者が宇津慎史に変更するとの記載があった。すなわち、生活介護の事業を、「アルプスの森」から「生活介護サニー」に業務委託した時の正式な管理者は、宇津慎史である。

▶株式会社 キープレイスのホームページに記載されているブログ内容

令和6年3月23日

「弊社のグループホームを利用されている利用者様が通われているご縁もあり、以前から管理者様と連絡のやり取りをさせていただいておりました。これまでは現場レベルのお付き合いで法人同士の関係がない中でのご相談に弊社のスタッフ会議でも新規事業としてお引き受けするかどうか様々な意見がでました。」

令和6年5月21日

「以前のブログで投稿しておりましたが、弊社が生活介護事業を開設することになった経緯は弊社のホームに入居している利用者様が通所されている事業所の管理者様から事業の継続を打診されたことからです。**事業を運営している法人様・代表者様とはこれまで直接に関りがない中**、管理者様の思いをお聞きし開設に向けて会社として動き出しました。まず運営している**法人の代表者様とお会いさせて頂き**、M&A等、金銭のやり取りや資本関係が発生しない事や同一場所で生活介護を運営することにへの理解・同意を頂きました。」

令和2年5月1日以降、アルプスの森の正式な代表者は宇津慎史である。また令和5年9月1日以降、アルプスの森の正式な管理者にも宇津慎史はなっている。しかしながら実質的に運営を行ったいたのは、宇津雅美であったことは判明している。また少なくともこの時期には、施設利用者への暴行事件で宇津慎史も宇津雅美も公判が継続しており、宇津雅美は在宅起訴、宇津慎史は勾留されている。従って、この時期に正式な管理者かつ代表者の宇津慎史に会うことは出来ないはずなので、この「生活介護サニー」の代表が会ったのは宇津雅美と思われる。

▶株式会社 キープレイスのホームページに記載されているブログ内容

令和6年5月21日「生活介護サニーについて」の説明文に以下の記載

「役所への申請書類も順調に進んでいく中で利用者様・ご家族様での説明会、引き続きキープレイスに移っていただく予定の管理者様を含めたスタッフの皆様が、突然キープレイスでは働かないと通告を受けました。

～ 省略 ～

管理者様からは併せて利用者様の引継ぎも1～2日しか行わない、プロだから引継ぎがなくてもできるでしょと仰せられました。」

アルプスの森(代表:宇津慎史)の不誠実な対応は、事業移管においても行われていたことが解った。さらには従業員が突然皆辞めたことから、アルプスの森(代表:宇津慎史)は、また遺族に説明をしないで、死亡事件の事を隠しながら、新規事業を展開しようと目論んでいると考えられた。